

# 平成30年度 追跡評価書

研究機関 : 日本電信電話株、東京大学生産技術研究所、NTT データ株、  
NTT コミュニケーションズ株、日本電気株、株KDDI 総合研究所、  
東京大学情報学環、株日立製作所

研究開発課題 : 「高信頼クラウドサービス制御基盤技術」に関する研究開発

研究開発期間 : 平成 22 ～ 24 年度

代表研究責任者 波戸 邦夫

## ■ 総合評価

### (総論)

研究開発成果に係る知的財産権や国際標準の獲得、論文発表等の周知広報活動のいずれも目標を上回る成果をあげており、有意義であったと評価できる。製品化・事業化についても一定の成果が見られ、今後の普及展開に期待したい。

### (コメント)

- 知的財産権や国際標準の獲得、論文発表等の周知広報活動のいずれも目標を上回る成果が得られており、新たな市場の開拓、拡大にも貢献するなど、本研究開発は有意義なものであった。
- プロジェクト終了後の活動も引き続き行われている点は評価できるが、個社サービスとしてだけでなく全体としてどのように普及させるかなど、もう一步踏み込んだ検討がほしいところ。

## (1) 成果から生み出された経済的・社会的な効果

### (総論)

目標を上回る知的財産権や国際標準を獲得するとともに、研究開発成果に基づく事業化や製品化が行われており、クラウド普及に果たした貢献は大きい。

### (コメント)

- 研究開発成果の国際標準化、事業化に向けた取組を推進し、目標を上回る知的財産権や国際標準を獲得するとともに、新たな市場の開拓、拡大に貢献している。
- プライベートクラウドへの適用、グローバルサービスへの展開などに活用されている。

## (2) 成果から生み出された科学的・技術的な効果

### (総論)

本研究開発成果を基盤とした応用研究を実施し、新たなサービス・製品開発、国際標準化につながる科学技術開発が誘引されている。

### (コメント)

- 本研究開発成果を基盤とした応用研究を実施し、新たなサービス・製品開発、国際標準化につながる科学技術開発が誘引されている。
- WAN 高速化において、他の高速化技術を組み合わせることで、さらなる高速化を達成した実績がある。

## (3) 副次的な波及効果

### (総論)

本研究開発を通じて、クラウドサービスの高信頼化・省電力化のための技術開発を担う研究人材の育成が図られ、クラウド産業全体の底上げに寄与している。

### (コメント)

- クラウドサービスの高信頼化・省電力化のための技術開発を担う研究人材の育成が図られ、企業として初めて OpenStack Superuser Award を受賞するなど、クラウド産業全体の底上げに寄与している。
- OpenStack 開発の人材の育成に繋がっている。

#### (4) その他研究開発終了後に実施した事項等

##### (総論)

研究開発終了後も目標を上回る論文発表などを行っており、基本計画書に記載された普及活動等は適切に履行されていると評価できる。

##### (コメント)

- 研究開発終了後も目標を上回る論文発表などを行っており、基本計画書に記載された普及活動等は適切に履行されている。
- 多くの特許取得や論文発表の実績がある。

#### (5) 政策へのフィードバック

##### (総論)

ネットワークトラヒックの急増による輻輳や緊急時の対応が急務となっている今日、クラウド連携技術の早期確立を目指した本研究開発が国家プロジェクトとして実施された意義は大きく、テーマ設定も妥当であった。

##### (コメント)

- ネットワークトラヒックの急増による輻輳や緊急時の対応が急務となっている今日、クラウド連携技術の早期確立を目指した本研究開発が国家プロジェクトとして実施された意義は大きく、特に自然災害の多い我が国では、クラウドサービスの高信頼化は喫緊の課題であり、テーマ設定も妥当であった。
- ITU-T における国際標準化に貢献しているが、個社サービスとしてだけでなく全体としてどのように普及させるかなど、もう一步踏み込んだ観点があると良い。